

プログラムを構成する授業科目について

①具体的な修了要件

②教育プログラムの修了要件

学部・学科によって、修了要件は相違しない

下記のリベラルアーツ教育科目を全て修得すること(必修4単位)。

- ・**情報リテラシー応用 データサイエンス入門**(90分×15回、1単位)
- ・京都光華の学び(90分×15回、1単位)
- ・アカデミックスキル入門(90分×15回、1単位)
- ・アカデミックライティング(90分×15回、1単位)

下記の3科目は選択とする。履修を推奨するが必修とはしない。

情報リテラシー**基礎**(90分×15回、1単位)、くらしのなかの統計学(90分×15回、2単位)、プログラミング入門(90分×15回、2単位)

③現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	1-1	1-6	授業科目	単位数	必修	開講状況	1-1	1-6
情報リテラシー応用 データサイエンス入門	1	○	全学開講	○	○						
京都光華の学び	1	○	全学開講	○	○						
情報リテラシー基礎 情報リテラシー	1		全学開講	○							
くらしのなかの統計学	2		全学開講	○	○						

④「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	1-2	1-3	授業科目	単位数	必修	開講状況	1-2	1-3
情報リテラシー応用 データサイエンス入門	1	○	全学開講	○	○						
京都光華の学び	1	○	全学開講		○						
アカデミックライティング	1	○	全学開講	⊖	○						
くらしのなかの統計学	2		全学開講	○	○						

⑤「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	1-4	1-5	授業科目	単位数	必修	開講状況	1-4	1-5
情報リテラシー応用 データサイエンス入門	1	○	全学開講	○	○						
京都光華の学び	1	○	全学開講	○	○						
アカデミックライティング	1	○	全学開講	○							
くらしのなかの統計学	2		全学開講	○	○						

⑥「活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	3-1	3-2	授業科目	単位数	必修	開講状況	3-1	3-2
情報リテラシー応用 データサイエンス入門	1	○	全学開講	○	○						
京都光華の学び	1	○	全学開講	○							
アカデミックスキル入門	1	○	全学開講	○	○						
情報リテラシー基礎 情報リテラシー	1		全学開講		○						
くらしのなかの統計学	2		全学開講	○							

⑦「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必修	開講状況	2-1	2-2	2-3	
情報リテラシー応用 データサイエンス入門	1	○	全学開講	○	○	○								
京都光華の学び	1	○	全学開講	○										
アカデミックスキル入門	1	○	全学開講	○										
アカデミックライティング	1	○	全学開講	○										
情報リテラシー基礎	1		全学開講		○	○								
くらしのなかの統計学	2		全学開講	○	○	○								

⑧選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目
くらしのなかの統計学	4-1統計および数理基礎		
プログラミング入門	4-2アルゴリズム基礎		
プログラミング入門	4-3データ構造とプログラミング基礎		
くらしのなかの統計学	4-4時系列データ解析		
くらしのなかの統計学	4-8データ活用実践(教師あり学習)		

⑨プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	講義内容
(1)現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	<p>1-1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビッグデータ、IoT、AI、ロボット「情報リテラシー応用 データサイエンス入門」(2回目) ・ビッグデータ、IoT、AI、ロボット「情報リテラシー基礎」(1回目) ・第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会「データサイエンス入門」(2回目) ・複数技術を組み合わせたAIサービス「情報リテラシー応用 京都光華の学び」(9回目) ・データを起点としたものの見方、人間の知的活動を起点としたものの見方「くらしのなかの統計学」(1回目、2回目) <p>1-6</p> <ul style="list-style-type: none"> ・AI等を活用した新しいビジネスモデル「情報リテラシー応用 データサイエンス入門」(2回目) ・AI等を活用した新しいビジネスモデル「京都光華の学び」(9回目) ・AI等を活用した新しいビジネスモデル「くらしのなかの統計学」(6回目)
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	<p>1-2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査データ、実験データ「くらしのなかの統計学」(4回目、12回目) ・調査データ、1次データ、2次データ「情報リテラシー応用 データサイエンス入門」(6回目、11~13回目) ・人の行動ログデータ・構造化データ・非構造化データ「情報リテラシー応用」(10回目) ・構造化データ、非構造化データ、データのオープン化「データサイエンス入門」(3回目) ・データのオープン化(オープンデータ)「アカデミックライティング」(12回目) ・データのオープン化(オープンデータ)「データサイエンス入門」(12、13回目) ・データのオープン化(オープンデータ)「くらしのなかの統計学」(4回目) <p>1-3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データ・AI活用領域の広がり「情報リテラシー応用 京都光華の学び」(9回目、10回目) ・データ・AI活用領域の広がり「アカデミックライティング」(11、12回目) ・仮説検証・知識発見・原因究明・計画策定など「情報リテラシー応用 データサイエンス入門」(11~14 8~13回目) ・仮説検証・知識発見・原因究明・計画策定など「くらしのなかの統計学」(6回目、7回目、11回目、12回目) ・判断支援(階層分析法)「京都光華の学び」(14回目)

<p>(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するもの</p>	<p>1-4</p> <ul style="list-style-type: none"> データ可視化：複合グラフ、2軸グラフ「情報リテラシー応用 データサイエンス入門」（5回目、8、6回目） データ可視化：複合グラフ、2軸グラフ、関係性の可視化、地図上の可視化など「くらしのなかの統計学」（4～6回目） 特化型AIと汎用AI、今のAIで出来ることと出来ないこと、AIとビッグデータ「情報リテラシー応用 京都光華の学び」（10回目） 特化型AIと汎用AI、今のAIで出来ることと出来ないこと、AIとビッグデータ「くらしのなかの統計学」（13回目） 今のAIで出来ることと出来ないこと「アカデミックライティング」（9、10回目） <p>1-5</p> <ul style="list-style-type: none"> データサイエンスのサイクル「情報リテラシー応用 データサイエンス入門」（11、12回目） 製造、サービス、ヘルスケア等におけるデータ・AI利活用事例紹介「情報リテラシー応用 京都光華の学び」（10回目） 金融、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI利活用事例紹介「くらしのなかの統計学」（7、12、14回目）
<p>(4) 活用に当たっての様々な留意事項（ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等）を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする</p>	<p>3-1</p> <ul style="list-style-type: none"> データ倫理：データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護「情報リテラシー基礎」（7回目） データ倫理：データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護「情報リテラシー応用 京都光華の学び」（10回目） データ倫理：データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護「アカデミックスキル入門」（1回目、8回目） データ倫理：データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護「くらしのなかの統計学」（13回目） データバイアス、アルゴリズムバイアス「情報リテラシー応用 データサイエンス入門」（10回目） データ・AI活用における負の事例紹介「くらしのなかの統計学」（13回目） データ・AI活用における負の事例紹介「情報リテラシー応用 データサイエンス入門」（10回目） <p>3-2</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報セキュリティ：機密性、完全性、可用性「情報リテラシー基礎」（1回目、2回目） 情報セキュリティ：機密性、完全性、可用性「情報リテラシー応用 データサイエンス入門」（1回目） 情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介「情報リテラシー基礎」（7回目） 情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介「アカデミックスキル入門」（9回目）

(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	<ul style="list-style-type: none"> データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値) 「情報リテラシー応用 データサイエンス入門」(7回目、11回目) データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)「くらしのなかの統計学」(2回目) 代表値の性質の違い「くらしのなかの統計学」(2回目) データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値)「くらしのなかの統計学」(3回目) 観測データに含まれる誤差の扱い「くらしのなかの統計学」(11回目) 打ち切りや脱落を含むデータ、層別の必要なデータ「くらしのなかの統計学」(6回目) 相関と因果(相関係数、擬似相関、交絡)「くらしのなかの統計学」(6回目) 母集団と標本抽出 「くらしのなかの統計学」(10回目) クロス集計表、分割表、相関係数行列、散布図行列 「情報リテラシー応用 データサイエンス入門」(5回目、6回目、7回目、11回目) 統計情報の正しい理解「アカデミックスキル入門」(13回目) 統計情報の正しい理解「アカデミックライティング」(12~14回目) 統計情報の正しい理解「京都光華の学び」(5~14回目) 統計情報の正しい理解(誇張表現に惑わされない)「くらしのなかの統計学」(1回目、2回目)
	<ul style="list-style-type: none"> データ表現(棒グラフ、折線グラフなど)「情報リテラシー応用 データサイエンス入門」(5回目、7回目、12回目、13回目) データ表現(棒グラフ、折線グラフなど)「情報リテラシー基礎」(10回目、11回目) データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップ)「くらしのなかの統計学」(4~6回目、9回目) データの図表表現(チャート化)「情報リテラシー応用 データサイエンス入門」(14回目、15回目) データの比較(条件をそろえた比較、処理の前後での比較、A/Bテスト)「くらしのなかの統計学」(12回目) 不適切なグラフ表現(チャートジャンク、不必要的視覚的要素)「くらしのなかの統計学」(2回目) 優れた可視化事例の紹介(可視化することによって新たな気づきがあった事例など)「くらしのなかの統計学」(8回目)
	<ul style="list-style-type: none"> データの集計(和、平均)、データの並び替え、ランキング「情報リテラシー応用 データサイエンス入門」(3~6回目) データの集計(和、平均)、データの並び替え、ランキング「情報リテラシー基礎」(7~9回目) 表形式のデータ(csv)「くらしのなかの統計学」(4回目)

⑩プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

Society5.0時代に向けて、日常の生活、ビジネス・健康科学・教育等の場でデータやAIを使いこなすための基礎的素養(リテラシー)を修得する。

- (1) 「データを正しく読む力」や「データを正確に伝える力」を身に付ける
- (2) データやAIが社会でどのように活用され、新たな価値を生んでいるのかを知る
- (3) データやAIの利活用には公平性・公正性・プライバシー保護などに課題があることを理解し、利活用に際し人間本位の適切な判断ができるようになる

⑪プログラムの授業内容等を公表しているアドレス

<https://www.koka.ac.jp/introduction/edual.html>

科目名称と授業内容に大きな変更あり

授業コード	R1057	科目コード	R10058
科目名	データサイエンス入門	授業名	a 全クラス共通シラバス
開講年度/学期	2023年度後期	単位※入学年度により異なる場合あり	1単位 配当年次※入学年度により異なる場合あり 1年
代表教員	武田 春美	教員名	武田 春美
実務家教員			

授業テーマ	前期に習得したOfficeソフトの基礎的なスキルを元に、数理・データサイエンス・AIの全体像を把握し、今後の情報社会に求められるIoT、AIの時代に対応したデータや情報を適切に扱う力、データ分析の基礎を身につけることを目指す。
授業の概要	情報リテラシー基礎で習得したパソコン操作スキル及び情報運用(法律・モラル・セキュリティ)を活用し、データをもとに事象を適切に捉え、分析・説明できる力を修得する。また、データ・AIを利活用出来る基礎的素養を身に着けることを授業目的とする。 授業内では、社会におけるデータ・AIとの関わり、統計の基礎的な考え方を習得し、統計局のデータを用いて社会の実データ、実課題を利用し、適切に読み解き、それらの関係を分析・考察し表現することを実践する。 また、セキュリティと情報モラルの習得を行う。
到達目標1（大学指定）	1.データ・AI活用領域の広がりを理解し、データ・AIを活用する価値とデータ・AIを扱う上での留意事項を説明できる
到達目標2（大学指定）	2. Excelなどの表計算ソフトウェアを用いてデータを適切に整理・分析することができる
到達目標3（大学指定）	3. 整理したデータや分析結果を正しく読み解き、適切な図表を用いて表現し、他者に分かりやすく伝えることができる

◆授業計画

〈担当形態〉	単独	
〈授業計画及び授業内容〉※各回の担当者、学外実習の詳細も記載		
1) オリエンテーション：オリエンテーション、データサイエンスとは。データサイエンスとは何か、情報とデータについて 2) 社会におけるデータ・AI利活用①：Society5.0・AIと社会の結びつきと活用・AI技術が引き起こす社会の課題 3) 社会におけるデータ・AI利活用②・データ・AI利活用留意事項：比構造化データ・構造化データ・情報モラルと情報セキュリティ 4) データリテラシー①：数式・関数の基本 5) データリテラシー②：データベース・ピボットテーブル 6) データリテラシー③：グラフ表現と分析 7) 統計的分析手法を学ぶ：標本調査、代表値、ばらつき、関係 8) データの活用事例に学ぶ①：体験：顧客の購買状況を統計的に分析し、その結果を活用する。 9) データの活用事例に学ぶ②：体験：顧客の特徴や傾向を調べ、販売戦略を立案する。 10) データの活用事例に学ぶ③：天気と売上の関係から、効果的な販売・仕入れ 11) データの活用事例に学ぶ④：統計的思考で商品の品質チェック 12) データ活用を実践する①：公的統計を使って、都市計画に挑戦 13) データ活用を実践する②：作物統計から農業の現状を把握する 14) データを表現する①：分析結果をわかりやすく効果的に表現する 15) データを表現する②：分析結果をPowerPointを利用してプレゼン資料にまとめ表現する。(最終課題)		
〈授業方法及び学生への課題・小テスト等のフィードバック〉		
授業の内容に応じて、PCを使った実習と基礎知識に関する座学を使い分ける。 個人の分析とグループワークを組み合わせ、様々なケースの疑似体験や分析を体験し、知識の定着を図る。 授業内容に関連した課題を実施し、理解度を深める。		

〈授業時間外学修（予習・復習等）について〉
前回までの講義内容について、テキストを元に必ず復習を行うこと。 疑問があれば、次回授業時または学習アドバイザーまで質問すること。 (復習時間は、おおよそ30分から1時間程度が望ましい)

◆定期試験等の実施について

定期試験等の実施方法	B：16週目にレポート課題等を実施（追試験対象外）
※上記で『A：16週目に試験実施』をご選択の場合のみご回答ください	
試験時間（分）	試験持込み内容

◆成績評価

成績評価方法	授業への参加度（20%） 演習課題の評価、レポート課題（50%） 最終課題（30%）
成績評価基準	授業への参加度…出席及び課題の実施有無で評価する 演習課題等の評価・レポート課題（16回目に実施）…単元ごとの理解度を図る課題を行う 最終課題…15回までに学んだ内容をもとに最終課題を実施。
担当者からのメッセージ（履修上の留意点等）	クラス指定の科目のため、必ず別途学科別等に指定されたクラスに受講登録すること。 情報リテラシー基礎で培った基礎力を土台として、実際に授業で活用し、社会人となってからも通じるような情報を処理する力を養います。 これからの社会で求められるデータサイエンスの基礎知識を身につけ、積極的に考える力を養う授業です。

オフィスアワー

質問等がある場合は、基本的に授業内に行うようにしてください。(授業開始・終了後も受けつけます)
それ以外の時間についての質問対応方法については、授業中に別途指示します。

◆授業での使用機器・ソフトウェア等 (PC・ipad・ロイロノート・クリッカー等)

情報教室のパソコンを利用するため個別には不要です。

◆教科書・参考書

※注意1: 学内販売あり/なし、購入必須/任意、電子教科書導入希望の区分毎に記入

※注意2: 電子教科書 = 2021年度以降入学生対象科目のみ ★導入希望欄: 1/3締切

● 【1】学内販売あり／全員購入必須(教科書)／電子教科書は導入しない

書名	著者	出版社	ISBN	備考
基礎からはじめるデータサイエンス		noa出版		

● 【2】学内販売あり／全員購入必須(教科書)／電子教科書導入希望

● 【3】学内販売あり／希望者のみ購入(参考書)／電子教科書は導入しない

● 【4】学内販売あり／希望者のみ購入(参考書)／電子教科書導入希望

○ 【5】学内販売なし／全員購入必須(教科書) ※学内書店での取り扱いはありません

○ 【6】学内販売なし／希望者のみ購入(参考書) ※学内書店での取り扱いはありません

授業内容に大きな変更あり

授業コード	R1025	科目コード	R10003	授業内容に大きな変更あり	
科目名	京都光華の学び		授業名	(木曜日配信)	
開講年度/学期	2023年度前期	単位※入学年度により異なる場合あり	1単位	配当年次※入学年度により異なる場合あり	1年
代表教員	小澤 千晶	教員名	小澤 千晶、朝倉 真一、加藤 千恵、森 久美子、土居 淳子		
実務家教員					

授業テーマ	本学建学の理念、特色を理解し、それらを基盤としながら、自立した“市民”に必要な批判的思考力（情報を集め、それらを批判的に評価し、責任ある判断を下す力）を身につける。
授業の概要	<p>この科目は、京都光華女子大学における初年次教育の土台として位置付けられる科目です。主に2つのパート（①光華を知る、②大学での学び）から成り立っています。</p> <p>ひとつは京都光華女子大学のことを学ぶパートです。</p> <p>もうひとつは、高校までの“勉強”を大学の“学び”に転換していくパートです。ここでは、主に主体的に考え学ぶ力（批判的思考力）を養います。</p> <p>この2つを通じて京都光華女子大学で学ぶための土台を作ります。大学は知識や技術を修得する場ですが、皆さんどのような目的で本学に進学しましたか？恐らく皆さんには、学んだ知識や技術を社会で活かすために大学に進学したと思います。ところで、皆さんのが卒業後に活躍する社会はどんなところでしょうか？こう聞かれても案外わからないものです。しかし、皆さんはもうすでに社会の一員です。税金（消費税など）も納めていますし、自治会活動などを通じて地域コミュニティにもかかわります。また、日本国籍があれば18歳から政治に参加する選挙権を有しています。</p> <p>つまり皆さんの選択や行動が、日々社会を形作っています。この科目を通じてこのことを自覚し、京都光華女子大学の一員として、また社会のメンバー（市民、シティ즌）として「主体的に考える力（批判的思考力）」を身に付けて欲しいと思っています。</p>
到達目標1（大学指定）	1.自校史、および建学の精神のよって立つところを理解し、大学生活の中に活かそうとする
到達目標2（大学指定）	2.社会的・政治的論争のある問題について、関連情報を集め批判的に評価し、自らの意見を述べることができる
到達目標3（大学指定）	3.身近な地域コミュニティの課題に対して、関連情報を集め批判的に評価し、自らの意見を述べることができる

◆授業計画

〈担当形態〉	複数
〈授業計画及び授業内容〉※各回の担当者、学外実習の詳細も記載	
<導入>	
第1回【4月6日】オリエンテーション	
<光華を学ぶ>	
第2回【4月13日】光華を知る1 学園創設者の願いと光華の歩み①・・・学園史（※要『聖典』）	
第3回【4月20日】光華を知る2 学園創設者の願いと光華の歩み②・・・建学の精神（※要『聖典』）	
第4回【4月27日】光華を知る3 光華と地域・・・地域コミュニティの課題について考える	
第5回【5月11日】光華を知る4 女子大学としての光華・・・女性・キャリア形成・防災・京都の男女共同参画を考える	
「京都光華の学び」対面サロン①：5月18日(木) 14時～15時	
<大学での学び>	
第6回【5月18日】大学での学び（テーマ1）女性の視点で社会を考える①・・・「自分の心身を自分のものとして大切にする」とは？	
第7回【5月25日】大学での学び（テーマ1）女性の視点で社会を考える②・・・ジェンダーと尊厳	
第8回【6月1日】大学での学び（テーマ1）女性の視点で社会を考える③・・・ジェンダーと政治（京都の若者の投票行動）	
「京都光華の学び」対面サロン②：6月8日(木) 14時～15時	
第9回【6月8日】大学での学び（テーマ2）未来を考える①・・・AIの基礎知識と活用状況	
第10回【6月15日】大学での学び（テーマ2）未来を考える②・・・AI技術を利用する場合のリスクと倫理	
「京都光華の学び」対面サロン③：6月22日(木) 14時～15時	
第11回【6月22日】大学での学び（テーマ3）いのちを考える①「死刑制度」とは？	
第12回【6月29日】大学での学び（テーマ3）いのちを考える②「死刑制度」をめぐる諸課題・国際社会の動向	
第13回【7月6日】大学での学び（テーマ3）いのちを考える③「死刑制度」を別の角度から考える	
第14回【7月13日】まとめ	
「京都光華の学び」対面サロン④：7月13日(木) 14時～15時	
第15回 光華を知る5 宗教講座の振替日（5月26日（金）あるいは6月30日（金）の5限目に開催される宗教講座を本科目の授業として聽講します）	
〈授業方法及び学生への課題・小テスト等のフィードバック〉	
【授業形態】	
本講はオンデマンド授業として実施します。授業実施日にあたる木曜日10時に授業動画を公開します。翌曜日までに動画を視聴して課題に回答してください。	
授業動画や課題は光華naviのコース学習に設定して公開します。各回コースが「完了」することで受講したとみなします。	
*対面の予定	
授業計画に記載したように、宗教講座の聴講は対面にて実施予定です。5月あるいは6月の最終金曜日の5限目です。	
*「京都光華の学び」対面サロン	
オンデマンド科目ではありますが、みなさんがより積極的に授業に取り組むことができるよう、テーマごとに対面で質問をしたり議論をしたりできる時間を用意します。	

開催予定日は上の授業計画で確認してください。実施会場は授業内でアナウンスします。またzoomでの参加もできるよう準備予定です。

【本科目の目標について】

本講では光華について、さらにみなさんが今後社会で生きていく中で一市民として向き合っていく課題を提示していきます。それらは「答えのある課題」ではなく、我々が個人として、そして社会として答えを模索していく課題です。判断するための様々な情報も併せて紹介しますので、今の段階でのみなさんの答えを作ってください。その答えを全体で共有していくことで、様々な見解があることを知り、自分自身の判断を客観的にとらえ育てていく姿勢を身につけること、そしてそのための学びが「大学の学び」であると理解することを目標とします。

〈授業時間外学修（予習・復習等）について〉

参考図書はたくさん紹介します。授業期間を通じてぜひ1冊以上読んでください。毎週90分以上読書の時間をとってください。

また、この授業の時間外学修で大切なことは、社会について関心を持つことです。新聞やニュースを見たり、家族と話したりすることも立派な予習・復習です。様々な情報に触れることで意見は変化しますが、それで構いません。そうやって視野を広げながら自分の意見を授業中に表明してください。

◆定期試験等の実施について

定期試験等の実施方法	B : 16週目にレポート課題等を実施（追試験対象外）
------------	-----------------------------

※上記で『A : 16週目に試験実施』をご選択の場合のみご回答ください

試験時間（分）		試験持込み内容
---------	--	---------

◆成績評価

成績評価方法	(1) 各回の受講確認課題 66% 第1回、第2-5回、第11~13回、第15回：各4点 第6~10回：各6点 (2) 中間レポート 15% (3) 最終レポート 20%
成績評価基準	(1) 受講確認課題 ①授業内容を振り返り、主体的な理解や判断を述べているかを評価します。 ②したがって振り返りの浅い回答は減点します。 ③木曜日が授業日で、月曜日までを提出期日とします。火曜～水曜日中の提出、あるいは次の授業日以降の提出で、2段階で減点します。 * 1 : 期日までに提出：配点中100% / 火曜～水曜日中の提出：配点中80% / それ以降の提出：配点中60% * 2 : 動画視聴は課題提出の前提条件です。したがって動画視聴が完了していない場合は、課題を提出しても得点できません。 (2) 中間レポート * 授業内容を振り返り、主体的な理解や判断を述べているかを評価します。 (3) 最終レポート * 評価基準を授業内で公開します。
担当者からのメッセージ（履修上の留意点等）	考えること、意見を書いたり話したりすることを楽しんでください。この授業での正解はひとつではありません。また、この授業はみなさんと一緒に創っていきたいと考えています。そして、この授業が終わる頃に、私もみなさんも、初回の授業時になかった視点やもの考え方にお会えたと思えるような授業にしていきたいと思っています。
オフィスアワー	★連絡先★ メールアドレス／研究室／オフィスアワーなど 小澤 千晶 c-ozawa@mail.koka.ac.jp / 賢風館605 加藤 千恵 c-kato@mail.koka.ac.jp / 2号館801・女性キャリア開発研究センター 朝倉 真一 (非常勤講師) kermit22@ma.0038.net 土居 淳子 jdoi@mail.koka.ac.jp / 賢風館202 森 久美子 k-mori@mail.koka.ac.jp / 聞光館研4 オフィスアワーは初回授業時にお知らせします。

◆授業での使用機器・ソフトウェア等（PC・ipad・ロイロノート・クリッカー等）

受講にはPC、iPad等インターネットに接続し、大学のアカウントでログインしたMicrosoft365のサービスを利用できる環境が必要です。

個人のPCやiPadの入手が遅れたり、自宅のインターネット環境が整わない場合も、スマートフォンにMicrosoft365をインストールして大学のwifiから受講と課題提出ができます。また、賢風館1階の学習ステーションのパソコンや授業時間外の情報実習室のパソコンを利用することもできます。したがってPC等の入手が遅れても慌てずに、学習ステーションなどで相談してください。

◆教科書・参考書

※注意1：学内販売あり／なし、購入必須／任意、電子教科書導入希望の区分毎に記入

※注意2：電子教科書＝2021年度以降入学生対象科目のみ ★導入希望欄：1/3締切

●【1】学内販売あり／全員購入必須(教科書)／電子教科書は導入しない

●【2】学内販売あり／全員購入必須(教科書)／電子教科書導入希望

●【3】学内販売あり／希望者のみ購入(参考書)／電子教科書は導入しない

●【4】学内販売あり／希望者のみ購入(参考書)／電子教科書導入希望

○【5】学内販売なし／全員購入必須(教科書) ※学内書店での取り扱いはありません

○【6】学内販売なし／希望者のみ購入(参考書) ※学内書店での取り扱いはありません

授業コード	R1026	科目コード	R10004	
科目名	アカデミックスキル入門		授業名	a 全クラス共通シラバス
開講年度/学期	2023年度前期	単位※入学年度により異なる場合あり	1単位	配当年次※入学年度により異なる場合あり 1年
代表教員	太田 路子	教員名	太田 路子	
実務家教員				

授業テーマ	大学での学習（学修）に不可欠な能力やスキルの基礎を学ぶ。
授業の概要	<p>本講では、大学生として身につけるべき「アカデミックスキル」の基礎を学ぶ。具体的には、「レポート作成」の基礎を中心に、学習行動として不可欠な「ノートテイク」や情報収集、情報分析、さらにメールマナーなど、大学での学習（学修）の基盤となる能力やスキルの基礎を意識づけもらうことを目的とする。本講での学びを土台にして、大学生として主体的に考え学ぶ姿勢を身につけ、大学での学びを深めてもらいたい。</p> <p>また大学導入科目として、PCやiPadなどの学内wifiへの接続や学内のオンラインツールの設定なども本科目で実施する。</p>
到達目標1（大学指定）	1. 大学生として学修に対し適切にして自覚的振舞いができる
到達目標2（大学指定）	2. 大学において求められる学修行動を理解し、実践できる
到達目標3（大学指定）	3. レポートの基本的な形式を理解し、実践できる

◆授業計画		
〈担当形態〉	単独	
〈授業計画及び授業内容〉※各回の担当者、学外実習の詳細も記載		
<p>1. ガイダンス／情報倫理テストについて／PC・iPadの学内での利用について 2. ノートテイク／授業に関わるアプリの操作について 3. レポートとは？ 4. レポート作成入門①－客観的事実に基づく記述 5. レポート作成入門②－引用の仕方と文献リストの作成 6. 課題資料の分析①－構造の分析 7. 課題資料の分析②－著者の主張の整理 8. レポート作成①－草稿の作成 9. 大学生としての情報リテラシー／情報検索について 10. レポート作成②－完成稿の作成 11. 要約課題①－資料の分析と情報検索 12. 要約課題②－情報検索した資料の分析と評価 13. レポートの返却と講評 14. 要約課題③－アウトラインの検討 15. 要約課題④－アウトラインの作成要約課題⑤－ぴあチェック</p>		
<p>*第1回、第2回、第9回の授業では、ガイダンス期間に配布された「システムガイドBOOK」を持ってくること。 *授業で「レポート作成のための資料集」「ワークブック」「文献資料集」を配布する。毎週持ってくること。</p>		

〈授業方法及び学生への課題・小テスト等のフィードバック〉
<p>授業では主として、レポート作成のためのマナーや作成に関わる作業を行っていく。これらはいわばトレーニングにあたるものなので、受講生には提示される課題に積極的に取り組んでもらいたい。レポート作成のほかに、レポート作成に欠かせない情報検索や収集した資料の要約課題も提示する。できる限り、授業内のワークとして進めていくが、授業外での学修も不可欠であることは意識してもらいたい。</p> <p>レポートについては、添削評価した上で授業内で返却する。評価の低いものは、加筆修正をしたうえでの再提出を義務付ける。慣れない作業のため、不安もあると思うが、レポートを作成していく上での考え方や形式を身につけるトレーニングとして、前向きに取り組んでもらいたい。</p>
〈授業時間外学修（予習・復習等）について〉

定期試験等の実施方法	B : 16週目にレポート課題等を実施（追試験対象外）
※上記で『A : 16週目に試験実施』をご選択の場合のみご回答ください	
試験時間（分）	試験持込み内容

◆成績評価	
成績評価方法	①平常点：60% ②評価点：40%
成績評価基準	① 受講態度や課題提出から評価 「求められた内容」を「求められた形式」で「求められたとき」までに提出するが基本です。大学生の基本として、スケジュール管理をきちんと行ってください。なお、欠席（及び遅刻）が授業回数の1/3を超えた場合は単位認定の対象となりません。

	<p>② レポートの評価 レポートの内容に対する評価です。評価は授業で配布する「レポート作成のための資料集」に掲載したループリックに基づいて行います。</p>
担当者からのメッセージ（履修上の留意点等）	授業の形式、教材、学習成果評価の方法、授業外学修の仕方など、多くの点で、大学での学びは高校まで学びとは異なります。「わからない」「むずかしい」という壁に何度も直面することと思いますが、投げ出さず一つ一つ乗り越えて有意義な大学生活を送ってほしいと願っています。本講を有意義な大学生活を送るための最初の一歩としてください。
オフィスアワー	各クラスで担当教員が、授業外に質問等があるときのアクセス方法を指示します。 なお、オフィスアワー等不明点がある場合は、メールで連絡をください。大学メールに担当教員のアドレスが登録されています。

◆授業での使用機器・ソフトウェア等（PC・ipad・ロイロノート・クリッカー等）

初回授業で学内wifiの設定や本学のオンラインツールの紹介を行います。PC（あるいはiPad）を持ってきてください。初回授業で未入手の場合はスマートフォンの学内wifiの設定等を行います。

◆教科書・参考書

※注意1：学内販売あり／なし、購入必須／任意、電子教科書導入希望の区分毎に記入

※注意2：電子教科書＝2021年度以降入学生対象科目のみ ★導入希望欄：1/3締切

●【1】学内販売あり／全員購入必須(教科書)／電子教科書は導入しない

●【2】学内販売あり／全員購入必須(教科書)／電子教科書導入希望

●【3】学内販売あり／希望者のみ購入(参考書)／電子教科書は導入しない

●【4】学内販売あり／希望者のみ購入(参考書)／電子教科書導入希望

○【5】学内販売なし／全員購入必須(教科書) ※学内書店での取り扱いはありません

○【6】学内販売なし／希望者のみ購入(参考書) ※学内書店での取り扱いはありません

授業内容を一部変更

授業コード	R1041	科目コード	R10005
科目名	アカデミックライティング	授業名	a 全クラス共通シラバス
開講年度/学期	2023年度後期	単位※入学年度により異なる場合あり	1単位 配当年次※入学年度により異なる場合あり 1年
代表教員	二條 絵実子	教員名	二條 絵実子
実務家教員			

授業テーマ	文章の理解力と表現力の養成(基礎編)
授業の概要	『600字で書く文章表現法』をテキストとして、文章表現力養成のコースを履修する。大学での学習内容として、状況にふさわしいコミュニケーション能力を修得することは重要な要素である。テキストは、国語教材開発に長年、携わってきた著者が作成したもので、文章作成の基礎知識と実用的な表現スキルを身に付け、社会活動で要求される日本語運用力をバランスよく学ぶように課題が設定されている。
到達目標1（大学指定）	1.目的に応じて適切な語彙と表現を選択することできる
到達目標2（大学指定）	2.自分の意見を論理的かつ効果的に組み立て発表できる
到達目標3（大学指定）	3.他者の文章や口頭表現を適切に批評、添削することができる

◆授業計画

〈担当形態〉	単独
〈授業計画及び授業内容〉※各回の担当者、学外実習の詳細も記載	
1回 はじめに 授業の進め方注意点 この授業で学びたいこと（300字）作成	
2回 説明文 事実と意見 解説とミニワーク	
3回 説明文 説明のポイント 解説とミニワーク	
4回 効果的な説明スキル 実践演習 自己添削	
5回 意見文の基本構成 解説とミニワーク	
6回 対話と反駁 解説とミニワーク	
7回 実践演習 作文と相互添削	
8回 実践演習 引用と要約	
9回 特定テーマ講演受講	
10回 実践演習 講演内容の振り返りレポート作成	
11回 グループワーク 講演振り返りの共有	
12回 特定テーマに関するグループディスカッション	
13回 実践演習 ディスカッションに基づく意見文の作成と発表	
14回 実践演習 質疑と相互批評	
15回 授業のまとめ この授業で学んだこと（600字）作成	

〈授業方法及び学生への課題・小テスト等のフィードバック〉

①授業の進め方や受講のルール

授業での解説、課題作成（宿題）、添削と批評という流れで学習を進めるので、毎回の出席と課題の作成（宿題として課す）が必須である。

②資料配布のルール

授業中にプリントで配布するほか、光華naviを使用する。

③課題提出のルール

課題の文章は原則としてwordで作成して、naviで提出する。

〈授業時間外学修（予習・復習等）について〉

前回までの授業内容について必ず復習を行い、課題作成に取り組むこと。

次回学習予定の範囲についてテクストを読んでおくこと。

事前事後の学習と課題作成に30分から1時間程度を要する。

◆定期試験等の実施について

定期試験等の実施方法	B : 16週目にレポート課題等を実施（追試験対象外）
------------	-----------------------------

※上記で『A : 16週目に試験実施』をご選択の場合のみご回答ください

試験時間（分）		試験持込み内容
---------	--	---------

◆成績評価

成績評価方法	授業への参加度（ミニワークへの取り組み方） 20% 提出課題 80%
成績評価基準	授業中の演習への取り組み 提出課題のできばえ
担当者からのメッセージ（履修上の留意点等）	授業運営にあたってとくに重視するのは、作文、添削、推敲の過程を一連の流れとして進めることである。そのため毎回、課題を課すので、受講者は、この流れをよく踏まえて課題に取り組んでもらいたい。なお、文章表現力の基礎を固めるために、漢字・語句の小テストを、授業中に適宜、実施することがある。
オフィスアワー	初回の授業で伝達する

◆授業での使用機器・ソフトウェア等 (PC・ipad・ロイロノート・クリッカー等)

ノートパソコン必携

◆教科書・参考書

※注意1：学内販売あり/なし、購入必須/任意、電子教科書導入希望の区分毎に記入

※注意2：電子教科書 = 2021年度以降入学生対象科目のみ ★導入希望欄：1/3締切

● 【1】学内販売あり／全員購入必須(教科書)／電子教科書は導入しない

書名	著者	出版社	ISBN	備考
600字で書く文章表現法	平川敬一	大阪教育図書		

● 【2】学内販売あり／全員購入必須(教科書)／電子教科書導入希望

● 【3】学内販売あり／希望者のみ購入(参考書)／電子教科書は導入しない

● 【4】学内販売あり／希望者のみ購入(参考書)／電子教科書導入希望

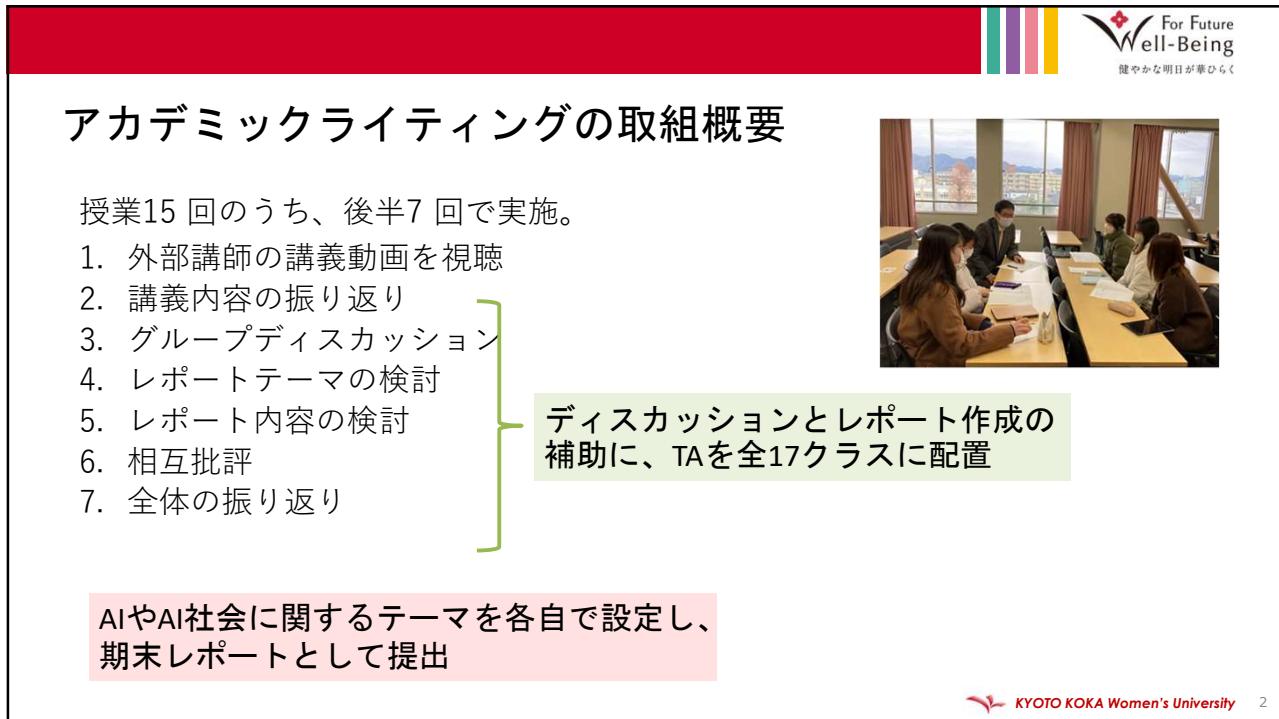
○ 【5】学内販売なし／全員購入必須(教科書) ※学内書店での取り扱いはありません

○ 【6】学内販売なし／希望者のみ購入(参考書) ※学内書店での取り扱いはありません

「アカデミックライティング」の位置づけ



1



2

授業コード	R1208	科目コード	R10070	
科目名	情報リテラシー		授業名	a 全クラス共通シラバス
開講年度/学期	2023年度前期	単位※入学年度により異なる場合あり	1単位	配当年次※入学年度により異なる場合あり 1年
代表教員	武田 春美	教員名	武田 春美	
実務家教員				

授業テーマ	社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、いかに効果的に情報を活用できるかを実践的に学んでいく
授業の概要	大学での学習および生活において必須となる基礎的なICT利活用力を身につけることを授業の目的とし、学内ネットワークの利用・活用方法、キーボードのタイピング、レポート作成のポイント、各種分析方法の基礎、そしてプレゼンテーションのポイントなどを実践的に学ぶ。具体的には、Officeソフトの操作学習を通じ、身近な素材を元に、文書作成ソフト（Word）ではレポート作成、表計算ソフト（Excel）ではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフト（PowerPoint）ではスライド作成といった、基礎力を養う。また、情報社会における様々な危険から自分たちの身を守るために知識、情報を扱う上での知識・技能である、広義の情報リテラシーの醸成も図る。本授業と後期のデータサイエンス入門を通じてIoT、AIの時代に対応したICTリテラシーの向上と習得、他科目での学習や学外の活動などで活用できるよう、授業を進める。
到達目標1（大学指定）	1.自らのパソコンを適切に管理し、安全に活用できる
到達目標2（大学指定）	2. Officeソフトの操作を理解し目的に応じた資料作成等ができる
到達目標3（大学指定）	3.セキュリティや情報モラル等を理解し場面に応じた必要な判断ができる

◆授業計画
〈担当形態〉 単独

〈授業計画及び授業内容〉※各回の担当者、学外実習の詳細も記載
1) オリエンテーション：今後の学習に必要な基本的な環境を準備し、理解すること、また利用方法を習得する。
2) セキュリティと情報モラル(1)：パソコン/ネットワークの利用において、データやファイルなどの情報の取り扱いを理解する。
3) セキュリティと情報モラル(2)：情報の適切な取り扱い方法や対策を学ぶ。
4) Word(1) 文書作成①：Officeソフトの概要について理解し、その一種であるワープロソフトWordの基本操作を学習し、簡単な文書の作成演習を行う。
5) Word(2) 文書作成②：Wordにおける、レイアウト処理や画像などのオブジェクト操作や見出し書式の設定方法を学び、指示された書式に沿ったレポート作成演習を行う。著作権：著作権などに関する権利・法律を理解する。
6) Word(3) レポート作成：レポート作成に必要な応用的な機能を学習する。
7) Excel(1) 表作成①：Officeソフトの表計算ソフトであるExcelの基本操作を学習し、簡単な表作成やデータ入力の演習を行う。個人情報保護：インターネット上で個人情報を取り扱う上での心構えや漏洩トラブルについて学習する。(小テスト（第4回～6回の内容）による到達度チェックとフォローアップによって学習内容の定着を図る)
8) Excel(2) 表作成②：Excelの基本操作を学習し、表作成やレイアウト調整を行う。ネットコミュニケーション：インターネット上で情報を発信する上での心構えやトラブルについて学習する。
9) Excel(3) 表作成③：Excelの基本的な数式・計算式を学習する。
10) Excel(4) 表作成④：Excelの基本的な関数を習得する。グラフ作成①：Excelの基本的なグラフ作成方法を習得する。
11) Excel(5) グラフ作成②：グラフを用いたデータ表現を学び、データの加工・集計結果を適切に表現する方法を習得する。
12) PowerPoint(1) スライド作成①：OfficeソフトのプレゼンテーションソフトであるPowerPointの基本操作を学習し、簡単なスライド作成の演習を行う。小テスト（第7回～11回の内容）による到達度チェックとフォローアップによって学習内容の定着を図る。
13) PowerPoint(2) スライド作成②：プレゼンテーション時において、活用できる知識・技能を学ぶ。
14) Word/Excel復習：Word、Excelの学習内容について復習する。
15) 総復習：Word、Excel、PowerPointの総復習。※基本的に上記授業計画に基づき進めるが、受講生の理解状況などにより変更する可能性がある。(詳細は授業内で指示する)

〈授業方法及び学生への課題・小テスト等のフィードバック〉
授業の内容に応じて、PCを使った実習と基礎知識に関する座学を使い分ける。 また、e-Learning教材や課題により、様々な判断ケースの疑似体験や知識の定着を図る。 操作スキルについては、課題や理解度チェック、小テストなどによる、こまめな状況確認とフォローアップの繰り返しで、着実な習得を目指す。課題については、次回授業時に前回の振り返りと共にフィードバックを行う。

〈授業時間外学修（予習・復習等）について〉
前回までの講義内容について、テキスト、e-Learningを元に必ず復習を行い、確認問題を解いておくこと。 疑問があれば、次回授業時または学習アドバイザーまで質問すること。 (復習時間は、およそ30分から1時間程度が望ましい)

◆定期試験等の実施について
定期試験等の実施方法 B：16週目にレポート課題等を実施（追試験対象外）

※上記で『A：16週目に試験実施』をご選択の場合のみご回答ください
試験時間（分） 試験持込み内容

◆成績評価
成績評価方法 授業への参加度（20%） 演習課題（e-learning含む）等の評価・レポート課題（第16回）（40%） 小テスト（第7回、12回）と総合課題（15回）（40%）により総合評価を行う。

成績評価基準	授業への参加度（20%）…出席状況で評価する。 演習課題（e-learning含む）等の評価・レポート課題（第16回）（40%）…授業内で指定した課題やe-learning教材による確認テストによって評価する。 小テスト（第7回、12回）と総合課題（15回）…小テストや総合課題を実施し評価する。（Word、Excelについて授業で学んだ知識や理解度を問う問題を出題する。）
担当者からのメッセージ（履修上の留意点等）	クラス指定の科目のため、必ず別途学科別等に指定されたクラスに受講登録すること。 今後の大学生活において、レポート・プレゼンテーションには必ず直面することになります。授業内や授業後の演習課題に取り組み身につけていきましょう。
オフィスアワー	質問等がある場合は、基本的に授業内に行なうようにしてください。（授業開始・終了後も受け付けます。） それ以外の時間についての質問対応方法については、授業中に別途指示します。

◆授業での使用機器・ソフトウェア等（PC・ipad・ロイロノート・クリッカー等）

情報教室のパソコンを利用するため個別には不要です。

◆教科書・参考書

※注意1：学内販売あり／なし、購入必須／任意、電子教科書導入希望の区分毎に記入

※注意2：電子教科書＝2021年度以降入学生対象科目のみ ★導入希望欄：1/3締切

●【1】学内販売あり／全員購入必須（教科書）／電子教科書は導入しない

書名	著者	出版社	ISBN	備考
イチからしっかり学ぶ!Office基礎と情報モラルOffice365・Office2019対応		noa出版		

●【2】学内販売あり／全員購入必須（教科書）／電子教科書導入希望

●【3】学内販売あり／希望者のみ購入（参考書）／電子教科書は導入しない

●【4】学内販売あり／希望者のみ購入（参考書）／電子教科書導入希望

○【5】学内販売なし／全員購入必須（教科書）※学内書店での取り扱いはありません

○【6】学内販売なし／希望者のみ購入（参考書）※学内書店での取り扱いはありません

授業コード	R1201	科目コード	R10042	
科目名	くらしのなかの統計学		授業名	
開講年度/学期	2023年度後期	単位※入学年度により異なる場合あり	2単位	配当年次※入学年度により異なる場合あり 1年
代表教員	土居 淳子	教員名	土居 淳子	
実務家教員				

授業テーマ	身近な題材をもとに、確率と統計の基本的な考え方を学ぶ
授業の概要	データをとり、眺め、それから何らかの推測をする方法—統計的手法—は、自然科学・社会科学においてはもちろん、私たちの日常生活においても必須の道具となっている。この授業では、統計の基本的な考え方を、身近な題材をもとにわかりやすく解説する。
到達目標1（大学指定）	1.社会におけるデータと統計の役割を理解している
到達目標2（大学指定）	2.基礎的な確率の概念を理解し、応用することができる
到達目標3（大学指定）	3.推測統計の基本的な考え方を理解している

◆授業計画

〈担当形態〉	単独	
〈授業計画及び授業内容〉※各回の担当者、学外実習の詳細も記載		
1. ガイダンス／この科目で扱う授業概要、進め方等について説明		
2. 知ってるつもりの世界と統計でみる世界		
3. じゃんけん必勝法 一大数の法則—		
4. 一流は宝くじ売り場に並ばない 一平均値と期待値—		
5. 「最も儲かるギャンブルとは」 一還元率の高い投資の法則—		
6. 生命表と生命保険		
7. ここまでまとめと補足		
8. 早く進むレジ行列の見つけ方 一標準偏差とリスク—		
9. 早生まれはスポーツ選手になれない！？ 一相関と因果関係—		
10. 統計で社会全体を推測する2 正規分布と標本誤差、「視聴率20%」の本当の意味は？		
11. ミルクティーはミルクから入れた方が美味しい？ ランダム化比較実験		
12. 健康食品やトクホってほんとに効くの？		
13. 感染症検査と罹患率 一推定—		
14. 傘を忘れた日に限って雨が降る 一意志決定バイアス—		
15. まとめと振り返り		

〈授業方法及び学生への課題・小テスト等のフィードバック〉

テキストをベースに、適宜プリントを配布しながら進める。授業内で演習問題にも取り組む。 授業内課題については、原則として、提出期限後の直近の授業で解説を行なう。
〈授業時間外学修（予習・復習等）について〉

次回授業で扱うテキスト範囲を指示するので、必ず、読んでくること。また、前回までの講義内容について復習を行い、出されたレポート課題・演習課題に必ず取り組むこと。予習・復習および問題演習に、1時間～2時間程度必要である。

◆定期試験等の実施について
定期試験等の実施方法 B : 16週目にレポート課題等を実施（追試験対象外）
※上記で『A : 16週目に試験実施』をご選択の場合のみご回答ください
試験時間（分） 試験持込み内容

◆成績評価
成績評価方法 授業後のミニッツペーパー 30% 授業内演習課題 40% 期末レポート課題 30%
成績評価基準 授業後のミニッツペーパー：提出状況および授業内容の理解度や学びの積極性を評価する（各回2点満点）。 授業内演習課題：授業内課題（翌週が提出期限）やワークシートの提出状況および完成度を評価する（3段階で評価）。 期末レポート課題：授業内容をふまえて統計データを読み解くことが出来ているか、また、指示された要件を満たしているか、分りやすくまとめられているかを総合的に評価する。
担当者からのメッセージ（履修上の留意点等） 統計と確率の知識は、現代人にとって必須の知識です。また、大学での専門科目の学習にも深く関わっています。難しい数式を使わず、具体的な事例やトピックスを紹介しながら講義していきたいと思っています。
オフィスアワー 研究室：賢風館2F202 メール：jdoi@mail.koka.ac.jp オフィスアワー：火曜日12：10～12：40

◆授業での使用機器・ソフトウェア等 (PC・ipad・ロイロノート・クリッカー等)

教室内でPC演習を行う場合がある。課題の提出や解説資料の配布等にロイロノート（授業支援アプリ）を使用する。

◆教科書・参考書

※注意1：学内販売あり/なし、購入必須/任意、電子教科書導入希望の区分毎に記入

※注意2：電子教科書＝2021年度以降入学生対象科目のみ ★導入希望欄：1/3締切

●【1】学内販売あり／全員購入必須(教科書)／電子教科書は導入しない

書名	著者	出版社	ISBN	備考
別冊 ゼロからわかる統計と確率 改訂第2版 (ニュートン別冊)		ニュートンプレス	978-4315525694	

●【2】学内販売あり／全員購入必須(教科書)／電子教科書導入希望

●【3】学内販売あり／希望者のみ購入(参考書)／電子教科書は導入しない

●【4】学内販売あり／希望者のみ購入(参考書)／電子教科書導入希望

○【5】学内販売なし／全員購入必須(教科書) ※学内書店での取り扱いはありません

○【6】学内販売なし／希望者のみ購入(参考書) ※学内書店での取り扱いはありません

授業コード	R1235	科目コード	R10054	
科目名	プログラミング入門	授業名	a	全クラス共通シラバス
開講年度/学期	2023年度後期	単位※入学年度により異なる場合あり	2単位	配当年次※入学年度により異なる場合あり 1年
代表教員	臼井 義比古	教員名	臼井 義比古	
実務家教員				

授業テーマ	PythonとScratchを使用したプログラムの作成を通じて、プログラミングの基本的な考え方や知識を習得する。
授業の概要	<p>最近は、誰でも簡単にプログラムが組める時代に変わってきました。クリックとちょっとのプログラムで3次元ゲームができ、PSの売り物ゲームを作れるソフトウェアが学校向けには無料で配布されている時代です。</p> <p>そこで、この授業では、プログラミングが初めての人を対象に、プログラミング言語Python(バイソン)を用いて、サンプルのプログラムを作りかえたりしながら、繰り返しや場合分けした動作させるようなプログラミング特有の考え方を学びます。また、お絵かきツール感覚で使えるScratch(スクラッチ)で、自由にキャラクタを動かします。</p> <p>プログラミングを体験することで、文系・理系を問わず論理的に考える力を鍛えることができ、また、「わからなかったことがわかる」「できなかつたことができる」「思い通りにプログラムを動かす」という学びの楽しみを体験することを通じて、粘り強い学習態度を身につけることも目標とします。</p> <p>15回の授業のなかで、簡単なゲームやアニメーションプログラムあるいは、連立方程式を解くプログラムなどを作成します。</p>
到達目標1 (大学指定)	1. プログラミングに関する基礎知識を身につけている
到達目標2 (大学指定)	2. Pythonなどのプログラミング言語を使って、簡単なプログラムが作成できる
到達目標3 (大学指定)	3. 自分のアイデアをプログラムで表現できる

◆授業計画

〈担当形態〉	単独
--------	----

〈授業計画及び授業内容〉※各回の担当者、学外実習の詳細も記載

- 1 PCなしでプログラミング。準備と入力練習
- 2 変数は、数と文字を覚えて、表示もできる
- 3 同じことを繰り返すプログラムを短く書けるかな？
- 4 数の大小で違うことをしたい時と、沢山の数を覚えたい時
- 5 沢山の数の最大値を探す手順(アルゴリズム)を考える
- 6 2-5のまとめと演習
- 7 同じ作業を何度もするときは「関数」をつかおう
- 8 関数の継続。人が作ったプログラム(モジュール)を便利に使うのは必須技術
- 9 グラフを書いてくれる便利なモジュールに慣れよう
- 10 アプリの作り方(アプリモジュールを使って楽しもう)
- 11 アニメアプリの作り方(キャラを動かす)
- 12 行列計算モジュールで連立方程式を解いてみる(行列、逆行列、ランク)
解けない連立方程式があるんです、それも調べます
- 13 小学生向けプログラミング教材(スクラッチ)でゲームを作る
- 14 背景やキャラを変え、スクラッチを極めて先生になろう
- 15 キャラの動きを連動させよう

テスト期間 これまで作ったアニメアプリかスクラッチをさらに作り変えたプログラムを総合課題として提出してもらいます

〈授業方法及び学生への課題・小テスト等のフィードバック〉

毎回、課題に沿ったプログラムを実際に作成し、あるいはサンプルを修正し、プログラムの動作確認やエラーへの対応を通して、プログラミングに関する楽しさを深めます。

各回の授業の進め方は原則として、次のとおりです。

- ①前回の課題の解説
- ②当日の課題の説明とサンプルによる演習
- ③課題の光華naviへの提出

提出された課題は、締切後1週間以内にコメントします。

〈授業時間外学修（予習・復習等）について〉

- (1)授業時間内の課題が残るので、各自時間を持って提出してください。
- (2)自分で調べて学習できるサイト(サンプルと問題と回答つき)を案内しますので、毎週1時間以上自分で範囲を決めて問題をといてください。
- (1)(2)を合わせて毎週2時間程度の学修時間が必要です。

◆定期試験等の実施について

定期試験等の実施方法	B : 16週目にレポート課題等を実施（追試験対象外）
------------	-----------------------------

※上記で『A : 16週目に試験実施』をご選択の場合のみご回答ください

試験時間（分）		試験持込み内容
---------	--	---------

◆成績評価

成績評価方法	授業への取り組み態度 45% 課題への取り組み態度 30% 課題の達成度 15% 総合課題達成度 10%
成績評価基準	授業への取り組み態度は毎回 3% 課題の取り組み態度の毎回2%は(当日+宿題)課題ができなくても、頑張ってもらえばつきます。 課題の達成度1%は課題が一定基準できた場合につきます。 総合課題達成度は提出で10%つけますが、さすがに簡単すぎる内容だと3%引きます。
担当者からのメッセージ（履修上の留意点等）	最初から最後までゲーム感覚で楽しく勉強したいのですが、最初はそもそもできないので、ゆっくり慣れていきましょう。 毎回出題する課題は、「サンプルのプログラムを見て、好きに変更してください」という形式になります。最初は、数字を一つ変えるだけでも怖いですが、どこまでがんばって変更したかを確認します。提出時のコメントで、変更したところや、頑張ったところや自信がないところなどを書いてください。 また、光華naviのプロジェクトを使って、匿名で教えあってもらいます。 授業に欠席した場合には、何をやったかをnaviから辿れるようにしておきます。出席しなくても課題は別に点をつけます。(不明点があれば、質問に来てください)。
オフィスアワー	火曜日12時10分～13時 木曜日12時10分～13時 研究室 2号館3F 814 メール yo-usui@mail.koka.ac.jp

◆授業での使用機器・ソフトウェア等 (PC・ipad・ロイロノート・クリッカー等)

第9回第10回以外の授業(課題含む)は、実習室のPC、各自のPCやMacやiPadから、無料のインターネットサイト (W3schools,Scratch)を利用します。

第9回第10回の授業(課題含む)は、実習室のPCで行います。授業で説明するインストール(PC、Mac)を行えば、各自のパソコンでも行えます。ただ、iPadの人はインストールできないので実習室のPCを使ってください。第9回第10回を実習室以外で自習する場合は、学習ステーション(学内貸し出しあり、返却時間厳守)や図書館やコモンズなどのPCが必要になります。

テキストはW3schools(インターネット上の無料サイト、日本語翻訳版)を使います。授業中に案内します。

◆教科書・参考書

※注意1：学内販売あり/なし、購入必須/任意、電子教科書導入希望の区分毎に記入

※注意2：電子教科書＝2021年度以降入学生対象科目のみ ★導入希望欄：1/3締切

●【1】学内販売あり／全員購入必須(教科書)／電子教科書は導入しない

●【2】学内販売あり／全員購入必須(教科書)／電子教科書導入希望

●【3】学内販売あり／希望者のみ購入(参考書)／電子教科書は導入しない

●【4】学内販売あり／希望者のみ購入(参考書)／電子教科書導入希望

○【5】学内販売なし／全員購入必須(教科書) ※学内書店での取り扱いはありません

○【6】学内販売なし／希望者のみ購入(参考書) ※学内書店での取り扱いはありません

光華EDUALプログラムの取組概要

学部の専門知識に加え、データやAIを日常の生活、ビジネス・健康科学・教育等の場で使いこなすための基礎的素養（リテラシー）を併せ持つ、2つの強み(Dual advantage)を持った人材の育成を目指し、実践的な教育(Education)を実施。

